

月夜のヴェニス

熊谷九寿

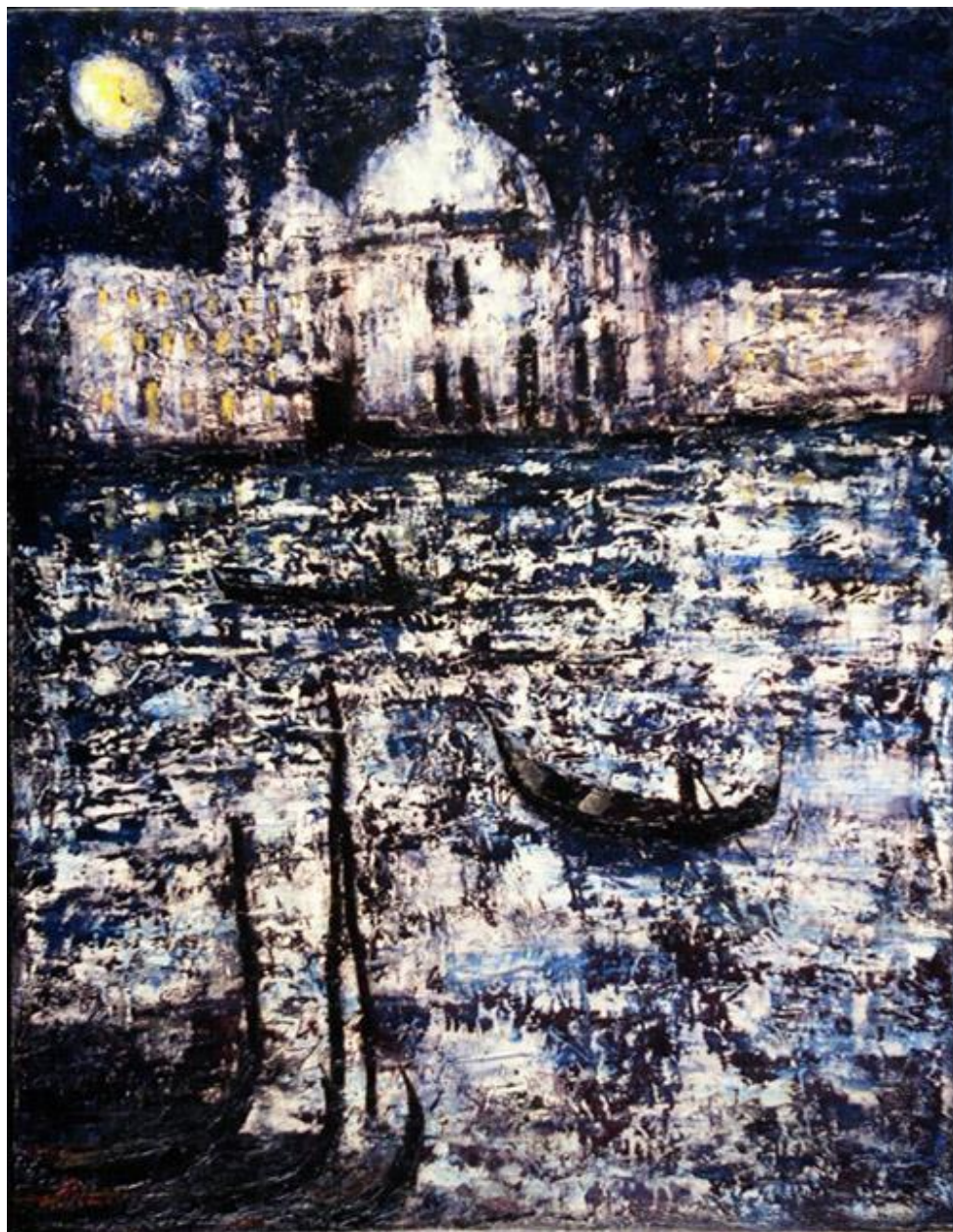
制作年：1964(昭和39)年

サイズ：116.7×91.0cm

材質：油彩、カンヴァス

所蔵：中津市木村記念美術館

1993(平成5)年中津市に寄贈される。



昭和37(1962)年、熊谷は渡欧しました。同郷の画家長野静司氏に送られた手紙・葉書類によると、3月～8月の間、ギリシア、イタリア、スペイン、フランスを廻ったようで、現地では画家仲間の庫田と合流していたようです。

旅行の詳細や、熊谷の印象・感想など詳しく残されてはいませんが、帰国して後の熊谷の作画には変化が現れました。翌年の第37回国画会展には「ノートルダム(滞欧作)」、昭和39(1964)年の第38回国画会展には「ベニス」を出品し、昭和40(1965)年の第39回国画会展に中津市所蔵の「ベニスの月(現「月夜のヴェニス」)」を出品しました。月夜に異国の水面は眩い輝きを反射し、そのただ中にゴンドラがゆっくりと浮かんでいます。背後には白亜の建物がそびえ、窓には明かりが灯り、その輝きも水面に揺れています。「月夜の東大寺」で見せた光のコントラストによる幻想的世界の表現が、より自由な筆致で、大胆になされています。また他にも熊谷はヴェニスを題材として頻りにとりあげ、紅を基調とした夕暮れの燃えるようなヴェニスの風景を絵にしました。熊谷は渡欧を通してより自由な筆致と、明るい色彩感覚に目覚めたといえます。